



# 人柱

阿部家の一族

# 人柱

阿部家の一族

この本は縦書きでレイアウトされています。

ご覧になる機種により、表示の差が認められることがあります。ご了承ください。

本電子書籍は購入者の閲覧目的のためだけにファイルの閲覧が許諾されています。

目的を超えた転載、配信、送信などの行為は著作権法上、禁じられています。

## 目次

実の生る木	4
真っ二つになった交通安全のお守り	5
身代り	8
燈籠流し	10
血柱	11
受難	12
お墓参り	13
悲劇の交差点	14
火柱	16

## 実の生る木

これは私が幼少期に体験したことです。

いつか見た古本に、

「家の庭に実の生る木を植えると、その家から死体を担ぐ棒を肥太らせる」と書かれていましたが、そのように縁起が悪いことが、本当に次々と起きたのでした。

母の実家に後妻に來た義理の祖母の植えた葡萄が蔦を生やし、色つや良く実をつけた頃のことでした。

メキシコにおける太陽の神にその国で最も美しい若者を生贄として捧げる儀式、築城の際に安全祈願のために人柱を捧げた儀式にも酷似した出来事が、私の一族に次々と起きたのでした。

その出来事が一体何を意味するのか？　まだ、当時の自分には、知るよしもありませんでした。

## 真つ二つになった交通安全のお守り

母の祖父は職場が門から入口まで遠いので自転車で通勤していました

が、通勤途上でその事故は起きました。

府中刑務所の通りで、牛乳配達員の運転手が三億円事件の指名手配ポスターに気を取られ、よそ見運転し、交通事故となったのでした。

本当に突如と起きたことでしたが、その後聞いた話では、母の祖父はこれから起きる事故を予測していたように、その日は朝食をとってからいつまでも家を出て行かなかったそうです。

当時の私たち姉妹弟は日曜教会に通っていて、正月の絞め縄が取れない年の初めに担当の先生から、

「今、お母さんから連絡がありました。おじいさんが交通事故に遭われたから今すぐいってあげて」と呼ばれました。

病院に向かう時、母は気が動転して、電車で行かないでタクシーで向か

つたため、予想以上に時間がかかってしまいました。

母は即死した祖父の体を何度となく、あきらめつかない様子で拭いていました。

母もなんとなくこの先起こりうる事故を予感していたかのように、七五三の時買った交通安全のお守りを祖父にあげていたのでした。そのお守りがこの事故で、交通安全の願いをあざ笑うかのように、真つ二つになっ  
ていました。

その時の祖父の所持品の中に赤ん坊の私を抱く母の写真がありました。後で実家の母方の義理の祖母から聞いたことですが、墓参りに行くと、その事故の加害者の母親に会って、

「あなたの夫を轢いたうちの息子はあの後事故ですぐに亡くなりました」



と言っていたとのことでした。

その人はたぶん、その事故の事が忘れられなくなり、良心の呵責に耐えきれなくなつて同じ事故という形で亡くなったのだと子供ながらに思いました。

## 身代り

母の祖父をあの世へと誘つた自転車は、元々父の叔母が買い物に行く時、幼い私も荷台に乗ったことがあります。私の父が叔母に買ってあげたものでした。後でいらなくなつたので私の母の祖父にあげたものでした。